

ビスカヤ橋

ビスカヤ橋全景



Javier Mediavilla Esquibela, "transbordador de Portugalete a Las Arenas"

所在地 ビルボ(スペイン・バスク自治州)

ビスカヤ橋はスペイン北部・バスク地方のビスケー湾に面した港湾都市ビルボ(バスク語)／ビルバオ(スペイン語)の河口付近にあり、左岸のポルトゥガレテ地区と右岸のゲチョ地区を結ぶネルビオイ川に架かる、1893年に完成した世界最古の運搬橋。地元では単に「吊り橋 puente colgante」と呼ばれることが多いが、一般的な吊り橋とは構造が全く異なる。長さは164mで、水面からの高さは45m。軽量鉄ケーブルの使用が画期的な、産業革命期の顕著な建築学上の鉄構造物として世界遺産に登録された。

登録区分 文化遺産

登録基準 (i), (ii)

登録年 2006年

ビスカヤ橋の歴史



可動部(ゴンドラ)

Fernando Pascullo, "Transbordador del puente de Vizcaya, España"

ビスカヤ橋の設計者は、バスク地方に生まれ、バルセロナで建築を学んだのちにパリに留学し、(エッフェル塔の建築で知られる)ギュスターヴ・エッフェルの弟子となったアルベルト・パラシオである(マドリードのアトーチャ駅舎も彼の作品)。橋の建設は、19世紀後半のバスク地方における銀行業や紡績業の発展に寄与した起業家であるサントス・ロペス・デ・レトナが出資したプロジェクトである点においても、バスク地方の近代化を象徴するものであった(19世紀末バスク社会の政治経済的変容については紹介図書・第7章を参照)。

吊り下げられたゴンドラで人や車を運搬する形式の運搬橋であり、ビルボに向かう海上交通を妨げないという交通上の利点に加え、長い傾斜路を必要としないことによる建築コスト抑制効果から、後に欧州内外における運搬橋のモデルとなった。橋は20世紀初頭における重工業の発展に伴うビルボ都市圏の拡大を支え(紹介図書・第9章および次ページを参照)、スペイン内戦における破壊や、石油危機後の重工業の停滞と社会不安の時代を経験したのち(紹介図書・第11章を参照)、住民の生活の質を高める形での都市再生を目指すビルボを象徴する、重要な市民の移動手段として現在も機能している。

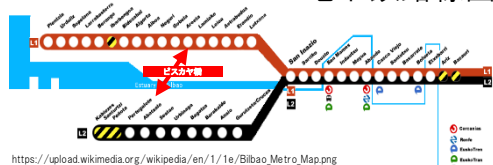


橋を渡って「バスクの葉山※」ゲチョへ（※筆者の勝手な解釈です）

昨年、筆者は調査の一環で右岸の街ゲチョを訪れる機会を得たため、その機会をいかして橋を渡ってみた。20世紀初頭のビルボは、ネルビオイ川を挟んだ左岸に製鉄所や造船所で働く労働者の居住地、右岸に工業発展を導いた資本家の居住地という住み分けを伴いながら、ビスケー湾に向かって都市圏を広げた（紹介図書193-4頁を参照）。1995年着工の地下鉄も、右岸を通る1887年開業の鉄道を市中心部へと延伸して建設した1号線が先に開業し、追って建設された左岸の2号線は、中野坂上の丸ノ内線のように分岐している。2号線に乗り、ポルトゥガレテ駅を降りて川沿いに向かうと、ビスカヤ橋を往来するゴンドラの搭乗口が見えてくる。常に地元の利用者があり、Suicaのようなビルボ市内共通の非接触式交通カード(Barik)が使える、また渡し賃も0.35€(50円ほど)と安価であった。両岸を歩行者のみならず自動車渡る必要があり、その一方で大型船も通行する水上交通を優先しなければならないという事情によって、ビスカヤ橋は鉄鋼・造船業とともに栄えたビルボの歴史を象徴するだけでなく、住民の足としての実用性を保っていることを実感した。ゴンドラ部分は1999年に更新されており、極めてスムーズに稼働していた。

橋の右岸に渡ると、現在でもスペイン随一の高級住宅街を有することで知られるゲチョに着く。海岸沿いには19世紀末から20世紀初頭に建てられた豪邸が並び、その中にはバスク地方の伝統的な建築様式を近代的に再解釈した「新バスク」と呼ばれる様式の建築もある。海水浴場やヨット・ハーバーがあり、また岬の側に進むと、整然とした新しい高級住宅街が現れる。葉山の披露山庭園住宅のようだ(という例えは適切だろうか...)。そんなゲチョは、スペインにおける外国人住民の社会統合に向けた政策の先進地域である。1980年代より、ゲチョでは富裕層家庭における家事労働者としてフィリピン人やボリビア人が多く働いており、また観光業にも中南米出身者を中心に多くの外国人が従事する。市役所の職員や住民への聴き取りでも、外国人労働者とともに街が成り立っているという認識にたって街づくりに取り組む姿勢がうかがわれた。かつて工業技術の粋を集めたユニークな橋を架けた街はいま、グローバル化のもとで結集した人々の多様性をバスクの伝統と融合させ、人々の間に「橋を架ける」試みにおいて、スペインや欧州の最先端を走る。

ビルボ地下鉄路線図



ゲチョの海岸



2017年8月筆者撮影

本の紹介



マヌエル・モンテロ（萩尾生訳）『バスク地方の歴史』

明石書店 2018年

ビスカヤ橋について直接言及しているわけではないが、スペインの中にあつてとりわけ特殊な地域とされるバスク地方の歴史がまとめられた通史。ビスカヤ橋の建設された19世紀末における近代化のインパクト、橋も破壊されることとなったスペイン内戦の惨禍、そして20世紀後半に脱工業化を迫られるなかでの観光都市への変貌といった街の歴史を知ることができる。

📍【配架場所】本館2階 【請求記号】2360:63

自己紹介



氏名 上野 貴彦

所属・学年 社会学研究科博士後期課程2年(国際社会学)

研究分野 南欧における都市・地域と移民の社会的統合